

令和5年度第1回呉市教科用図書（小学校・義務教育学校（前期課程））

選定委員会 会議録

日時	令和5年6月26日（月）9：00～11：00		
場所	生涯学習センター 407・408会議室		
参加者	選定委員会	呉市小学校長会長	安宗 誠 （阿賀小）
		校長	高尾 千草 （長迫小） 大窪 健 （警固屋小） 後東 貴之 （広小） 木村 智子 （仁方小） 横山 眞澄 （呉中央小） 税所 正紀 （吉浦小） 平岡 恵美子 （明德小） 森田 修一 （川尻小） 清水 晃子 （和庄小） 山田 幸治 （広南小） 曾根 智恵 （本通小）
	聴取の意見	保護者代表	藤脇 真美 脇原 園美
		学識経験者	吉長 成恭
教育委員会事務局	教育部長 学校教育課長 学校安全課長 学校安全課課長補佐 学校教育課主査 学校教育課主査 学校教育課主任指導主事 学校教育課指導主事	高橋 伸治 木屋 善貴 伊藤 賀世 田村 峽平 藤井 眞實 本谷 彰弘 細川 裕香 玉井 孝明	
傍聴者	森尾 敬介（教育委員） 佐々木 元（教育委員） 吉中 由美子（教育委員）		
内容	1 令和6年度使用教科用図書（小学校・義務教育学校（前期課程））の採択の手順及び選定委員会の任務等について 2 議事 （1）委員長及び副委員長選出 （2）教科用図書（小学校・義務教育学校（前期課程））の調査・研究の観点等について		

委員長選出までの司会を細川主任指導主事が行うこととし、委員会は9：00に始まった。

◎ 呉市教育委員会高橋教育部長の挨拶

- ・教科用図書の採択について
- ・教科用図書採択に係る誤記等と改善策について
- ・選定委員会の今後のスケジュールについて
- ・情報の公表について

1 令和6年度の使用教科用図書（小学校・義務教育学校（前期課程））採択の手順及び選定委員会の任務等について、資料に基づき、藤井主査が説明をした。

2 議事

（1）委員長及び副委員長選出

委員長及び副委員長の選出を行った。立候補者がなかったため、事務局より小学校長会長の安宗校長を委員長に、清水校長を副委員長に推薦し、承認された。

（2）教科用図書（小学校・義務教育学校（前期課程））の調査・研究の観点等について

司会を委員長に交代し、教科用図書（小学校・義務教育学校（前期課程））の調査・研究の観点等についての議事に入った。

◎ 事務局の説明（5つの観点について）

藤井主査が、調査・研究委員の部会に示す各教科の観点について、「広島県教育委員会が定めた『令和6年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択基本方針について』に準じて作成し、広島県教育委員会が示す5つの観点と同一のものとする」と説明した。

◎ 5つの観点についての質疑・応答

なし

◎ 国語の説明（調査・研究の視点と方法について）

高尾校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【国語】」に基づき、説明を行った。

◎ 国語についての質疑・応答・意見交流

・山田校長

「視点⑤の課題解決的な学習を実施するための工夫」として文学的な文章を教材とする「読むこと」の領域で調査・研究すると説明があった。国語の教科書には、いろいろな文章が掲載されていて面白いが、出版社によってちがう文章を比べることになると、調査しにくいのではないか。

・高尾校長

共通して掲載されている文学的な文章の教材もあるので、それを重点的に取り上げ調査・研究を実施する。その教材に対して、どのような課題が示されているのか、学習の進め方がどのようになっているのか、課題解決的な学習を実施するための工夫について調査をしていく。

・木村校長

調べる方法に関わって、「二次元コード」について調べることはあるのか。

・高尾校長

児童の学習意欲を高めたり、理解を深めたりするために、「二次元コード」を読み取って、学習場面等で活用することが当然考えられる。そのため、調査の中で、実際に「二次元コード」を読み取り、どのような内容であるか確認した上でそれぞれの調査結果の中に入れていく。

◎ 書写の説明（調査・研究の視点と方法について）

高尾校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【書写】」に基づき、説明を行った。

◎ 書写についての質疑・応答・意見交流

・清水校長

視点⑤に係る方法の中に「伝統的な言語文化に関する内容」とあるが、「伝統的な言語文化に関する内容」とは、例えばどのようなものか。

・高尾校長

例えば、俳句、短歌、古文や漢文などで、これらの内容とページ数を調査・研究していく。

◎ 社会の説明（調査・研究の視点と方法について）

後東校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【社会】」に基づき、説明を行った。

◎ 社会についての質疑・応答・意見交流

・高尾校長

視点④に係わる方法で、「学習の進め方とその具体例」とあった。社会科で重視すべき学

習の進め方とはどのようなものか。

・後東校長

学習指導要領には問題解決的な学習過程を充実させることの必要性が示されている。具体的には、児童が社会的事象から学習課題を見出し、見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見出したりする学習過程を指すが、そうした学習の進め方がどのように示されているか調べる。

・曾根校長

視点⑥現代的な諸課題の扱いについて、「自然災害から人々を守る活動に関する内容の扱い」や「国土の自然災害に関する内容の扱い」について調査・研究するとの説明があった。この方法は、呉市が過去に受けた災害を意識したものか。

・後東校長

その通り。呉市は平成30年度の西日本豪雨災害で大きな被害にあっており、「防災教育の充実」を図ってきた。今年度は「防災教育の深化」を重点施策の1つとしている。学習指導要領の教科の目標にも「自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人などの働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解する」と示されており、「自分の命は自分で守る力」の育成にもつながることから、しっかり調査したいと考えている。

◎ 地図の説明（調査・研究の視点と方法について）

後東校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【地図】」に基づき、説明を行った。

◎ 地図についての質疑・応答・意見交流

なし

◎ 算数の説明（調査・研究の視点と方法について）

横山校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【算数】」に基づき、説明を行った。

◎ 算数についての質疑・応答・意見交流

・清水校長

視点④に係る方法の中で、「問題解決の過程」について調査・研究するとの説明があった。

この「問題解決の過程」とは、どのような過程か。

・横山校長

「問題解決の過程」とは、「日常の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考えたりすること」、「算数の学習場面から問題を見だし解決したり、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考えたりすること」である。算数科においては、この二つの「問題解決の過程」が相互に関わり合って展開される。

◎ 理科の説明（調査・研究の視点と方法について）

平岡校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【理科】」に基づき、説明を行った。

◎ 理科についての質疑・応答・意見交流

・山田校長

視点⑤に係る方法の中で、「問題解決の過程の示し方」について調査・研究するとの説明があった。この「問題解決の過程」とは、先程算数でも説明があったが、他教科の授業ではあまり聞き慣れない言葉である。理科の学習において大切なものなのか。

・平岡校長

その通り。理科の学習は、児童が自然の事物・現象に親しむ中で興味・関心をもち、そこから問題を見だし、予想や仮説を基に観察、実験などを行い、結果を整理し、その結

果を基に結論を導き出すという流れを踏むことが多くある。この一連の流れが「問題解決の過程」と呼ばれており、とても大切にしている。

・山田校長

よく分かった。では、同じく視点⑤に係る方法の中で、「問題解決の力の扱いについて調査・研究する」と説明があったが、この「問題解決の力」とは、例えばどのような力なのか。

・平岡校長

問題解決の力とは、先程説明した「問題解決の過程」の中で育成されるもので、学習指導要領の教科の目標にも示されている。例えば、第4学年では、「主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する」といった力を中心的に育成することが示されている。各学年の理科の授業では、こうした「その学年で中心的に育成すべき『問題解決の力』」を念頭に置きながら、学習活動を展開していくことになる。

◎ 生活の説明（調査・研究の視点と方法について）

清水校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【生活】」に基づき、説明を行った。

◎ 生活についての質疑・応答・意見交流

・安宗校長

視点⑦に係る方法の中で、「幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続に関する内容」とあったが、この「円滑な接続」とは、例えばどのようなもので、どのように調査・研究していくのか。

・清水校長

幼児期の教育との接続について言えば、例えば、「児童にとって分かりやすく学びやすい環境づくり」や「幼児期からの学びと育ちを生かす活動を意図的に設定すること」等を行うことが大切であると示されている。これらの点を踏まえながら、内容の構成、配列、分量について調査・研究していく。

◎ 音楽の説明（調査・研究の視点と方法について）

曽根校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【音楽】」に基づき、説明を行った。

◎ 音楽についての質疑・応答・意見交流

・木村校長

視点⑧で「〔共通事項〕の指導を充実させる工夫」とあるが、音楽科の〔共通事項〕とは、どのようなものか。

・曽根校長

音楽科の〔共通事項〕とは、表現及び鑑賞の学習で共通に必要な資質・能力を示したものである。具体的には、「音楽を形づくっている要素、例えばリズムや速度、強弱等を楽曲から聴き取って、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること」、もう一つは、「音楽を形づくっている要素と、それらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解できるようにすること」である。学習指導要領には、この〔共通事項〕について、音楽の授業の「表現」や「鑑賞」の指導の過程で、十分な指導が行われるよう工夫することが必要である、と示されている。〔共通事項〕の指導を充実させる工夫という視点で、音楽を形づくっている要素の示し方と指導の工夫について調査・研究していく。

◎ 図画工作の説明（調査・研究の視点と方法について）

大窪校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【図画工作】」に基づき、説明を行った。

◎ 図画工作についての質疑・応答・意見交流

・高尾校長

先程音楽でも質問があったが、「視点②〔共通事項〕を視点とした学びの示し方」とあるが、図画工作科における〔共通事項〕とはどのようなものか。

・大窪校長

〔共通事項〕とは、学習指導要領解説では、表現及び鑑賞の活動の中で、共通に必要な資質・能力であると示されており、具体的には、「自分の感覚や行為を通して、形や色などをとらえること」、「様々な対象や事象について、自分なりのイメージをもつこと」である。

・安宗校長

「視点⑤表現と鑑賞との関連を図った学習活動」とあるが、どのような活動なのか。

・大窪校長

「表現」と「鑑賞」は本来一体であるため、例えば、1つの題材において、造形活動と鑑賞活動とが往還するような学習活動や、鑑賞の場面において、味わったことを試したり、表現に生かしたりすることができるような学習活動が考えられる。

◎ 家庭の説明（調査・研究の視点と方法について）

木村校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【家庭】」に基づき、説明を行った。

◎ 家庭についての質疑・応答・意見交流

・山田校長

カリキュラムマネジメントの視点から考えても、視点⑦にある「各教科等との関連」は大切だと思う。家庭科は生活と密接に結びついた教科であることを考えても、色々な教科と関連していると思うが、具体的にはどんな例があるのか。

・木村校長

例えば、食生活について「ご飯とみそ汁」について学習するが、材料の分量を測るために算数科の「かさ」の概念が必要であったり、お米の生産状況ということで社会科の「食料生産」について学んだことを生かしたりする。こうした他教科等との関連についても、どんな示され方をしているかしっかり見ていきたい。

◎ 保健の説明（調査・研究の視点と方法について）

税所校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【保健】」に基づき、説明を行った。

◎ 保健についての質疑・応答・意見交流

・曾根校長

視点③に係る方法の中で、「不安や悩みへの対処、けがの手当てに関する実習事例」について調査・研究するとあった。「けがの手当てに関する実習事例」としては、「傷口を清潔にする」「圧迫して出血を止める」などが想像できるが、「不安や悩みへの対処」としては、例えばどのようなものがあるのか。

・税所校長

「不安や悩みへの対処」としては、学習指導要領には、体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などを行うことが示されている。

・木村校長

視点②に係る方法の中で、「学校における食育・安全・体力向上（運動領域との関連）に関する記述」について調査・研究するとあったが、保健において食育に関する記述とはどういったものか。

・税所校長

食育について、学習指導要領には、体をよりよく発育・発達させるための適切な食事のとり方や、生活行動が主な原因となって起こる病気を予防するために偏った食事や間食を

避けることが示されており、これらの視点において、調査・研究を進めていく。

◎ 英語の説明（調査・研究の視点と方法について）

森田校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【英語】」に基づき、説明を行った。

◎ 英語についての質疑・応答・意見交流

・ 曾根校長

英語の学習では、まずは児童が「英語を使ってみたい、話してみたい」と思える、つまり、興味・関心をもつことが大切だと思う。視点⑧で「巻末資料、付録等の工夫」とあったが、そういった興味・関心をもたせるような工夫があるのか。

・ 森田校長

カードやシール、別冊など、様々な工夫がある。高学年から「読むこと」「書くこと」の学習が始まるわけだが、ドリルの的に覚え込むのではなく、興味・関心をもちながら、段階的に文字に慣れ親しんでいくことが大切であり、そういった工夫の具体として、巻末資料や付録等にどのようなものが掲載されているか調査・研究する。

◎ 道徳の説明（調査・研究の視点と方法について）

山田校長が資料「教科用図書の調査・研究の観点等について【道徳】」に基づき、説明を行った。

◎ 道徳についての質疑・応答・意見交流

・ 高尾校長

視点④に係る方法に、「体験的な活動を促す具体例」について調査・研究するとの説明があった。道徳科における「体験的な活動」とは、どのような活動なのか。

・ 山田校長

例えば、教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など、類似体験的な表現活動を取り入れた活動などが考えられる。

・ 高尾校長

よく分かった。では、視点⑥「現代的な課題等を踏まえた内容の示し方」の方法として、なぜ「いじめの問題の扱い」に焦点を当てて調査・研究していくのか。

・ 山田校長

小学校は平成30年度から「道徳科」として実施している。そのポイントの1つが、「いじめ問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善」することだった。内容項目を見ても、「善悪の判断」「友情、信頼」「相互理解、寛容」など様々なことがいじめの防止につながっているため、「いじめの問題の扱い」について焦点を当てて調査・研究を行っていく。

◎ 全体を通して

・ 吉長教授

会の前段に高橋部長が言っていたが教科書選定ということで、選定委員の先生方は多大な労力を使われると思う。その点において、公平性・透明性を担保して、誤記等ないように留意していただきたい。公平性・透明性のあとに競争性というものもあると思う。出版社を競争する、違いを発見することが調査・研究の一つの方法論だと思うが、先生方と主体である子どもたちが新しい価値観を生み出していく、共創性も大切である。呉市においては、充実した教育を進めているので、一層子どもたちとともに共創性を育てていただきたい。

・ 藤脇保護者代表

初めて会に参加したが、このような形で教科書を選定していることに驚いている。子どもたちが楽しく分かりやすい教科書を選定していただきたい。二次元コードなどを使って教科書とタブレットを活用し、子どもたちが有意義に学校生活を送れるようにして欲しい。各学年で学ぶ内容も違うが、共通した観点で選定して欲しい。各教科それぞれ学ぶ意義があると思っている。この会が充実したものになるよう、しっかり話していきたい。

・ 脇原保護者代表

細かく設定された視点と観点から検討をよろしく願います。特に小学校となると、年齢層が

幅広いので，特に大変だと思うが，子どもたちに寄り添い，子どもたちも使いやすい教科書選定をお願いする。

◎ 小学校教科用図書の調査・研究の観点等については，原案通り調査・研究委員の部会へ示す承認を得る。

◎ 閉会

細川主任指導主事が次回の予定等について確認して，会を終了する。

令和5年度第2回呉市教科用図書（小学校・義務教育学校（前期課程））

選定委員会 会議録

日時	令和5年8月4日（金）13:30～16:30		
場所	呉市役所7階 751～754会議室		
参加者	選定委員会	呉市小学校長会長	安宗 誠 （阿賀小）
		校長	高尾 千草 （長迫小） 大窪 健 （警固屋小） 後東 貴之 （広小） 木村 智子 （仁方小） 横山 眞澄 （呉中央小） 税所 正紀 （吉浦小） 平岡 恵美子 （明德小） 森田 修一 （川尻小） 清水 晃子 （和庄小） 山田 幸治 （広南小） 曾根 智恵 （本通小）
	意見の聴取	保護者代表	藤脇 真美 脇原 園美
		学識経験者	吉長 成恭
	教育委員会事務局	教育部長 学校教育課長 学校安全課長 学校安全課課長補佐 学校教育課主査 学校教育課主査 学校教育課主任指導主事 学校教育課指導主事	高橋 伸治 木屋 善貴 伊藤 賀世 田村 峽平 藤井 眞實 本谷 彰弘 細川 裕香 玉井 孝明
傍聴者	森尾 敬介 （教育委員） 吉中 由美子 （教育委員） 辻 佑子 （教育委員）		
内容	1 第1回選定委員会の内容についての確認 2 調査・研究委員の部会についての報告 3 議事 ・総合所見の案について		

◎ 開会

細川主任指導主事の司会で委員会は定刻に始まった。

1 第1回選定委員会の内容についての確認（進行：議長 安宗校長）

・藤井主査

まず、第1回の選定委員会の内容について確認する。内容は、委員長及び副委員長選出と教科用図書の調査・研究の観点等についての2点であった。

1点目について、委員長には、安宗校長が、副委員長には清水校長が選出され、決定した。

2点目の教科用図書の調査・研究の観点等について、調査・研究委員に示す観点を「広島県教育委員会が示す5つの観点と同一のものとする」と説明した。

調査・研究の視点及び方法について、いろいろな御質問や御意見が出され、「原案通り調査・研究委員会に示す」ということで議決された。

また、7月7日（金）に開催した第1回調査・研究委員の部会において、この観点、視点、方法及び第1回の選定委員会の内容は、各選定委員の校長から、委員の先生方に説明された。

◎ 協議結果についての質疑・応答

特になし

2 これまで行われた調査・研究委員の部会についての報告（進行：議長 安宗校長）

・藤井主査

まず、本選定委員会が調査・研究を依頼している調査・研究委員の部会について報告する。「令和5年度第2回呉市教科用図書（小学校・義務教育学校（前期課程））選定委員会—資料—」3ページの資料2「令和6年度使用教科用図書（小学校・義務教育学校（前期課程））の採択手続について」の「3 日程」。5月から8月のところにあるように、これまでに、調査・研究委員の部会を3回開催した。

第1回の調査・研究委員の部会は、7月7日（金）に開催した。

はじめに、教科用図書の採択の手順及び調査・研究委員の任務等の説明を行った。その後、各部会で、各選定委員の校長が、選定委員会で決定した観点等について説明した。そして、報告書を作成するための調査・研究の進め方を説明し、役割分担を行った。

第2回の調査・研究委員の部会は、7月18日（火）に開催した。第2回では、各委員が役割分担した箇所を調査・研究した内容について全体に報告し、検討した上で、加筆・修正する作業を行った。

第3回の調査・研究委員の部会は、7月27日（木）に開催した。視点ごとに主担当と副担当で誤字・脱字等のチェックを行い、作業を完了した。その後、7月28日（金）、選定委員長安宗校長に報告書が提出された。その報告書をもとに、選定委員会各部会代表の校長が作成したものが「総合所見（案）」である。この後、各部会代表の校長が提案する。

◎ 報告についての質疑・応答

特になし

3 議事（進行：議長 安宗校長）

（1）総合所見の案について

◎ 各自で資料を読んだ。（13時55分まで）

◎ 国語の説明

高尾校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 国語についての質疑・応答・意見交流

・山田校長

二次元コードにより、読み取ることができる Web 上に掲載されている言葉は、どのような工夫がされているか知りたい。

・高尾校長

東書は、巻末に紹介されている「言葉の広場」の内容が、付箋紙のようにして見出しになっており、全学年分を見ることができる。下学年の児童でも上の学年の言葉の広場を見ることができるので、児童の興味や理解度に合わせて語彙を増やすことができる。一方、光村は、それまで学習したことのみ、見ることができるようになっており、「人物」「物や事柄」「気持ちを表す言葉」の3つに分類されているので分かりやすい。

・清水校長

東書が「読むこと」「書くこと」の単元の間に、小単元「情報のとびら」を設定しているとあったが、どのような内容かももう少し詳しく教えていただきたい。

・高尾校長

第4学年下の8ページを使って説明する。8ページに、教材文「くらしの中の和と洋」を読み、和と洋を比べて目的に合わせて要約する「読むこと」の学習を行うことにより、情報を整理する力も養われる。それを受けて、22ページからは「和と洋新聞」を作る「書くこと」の学習を行う。また、「情報のとびら」の小単元を位置付け、「読むこと」で身に付けた情報を整理する力をより効果的に「書くこと」に活用できるようにしている。

◎ 書写の説明

高尾校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 書写についての質疑・応答・意見交流

・森田校長

観点3の説明の中で、「海外の文字文化に触れる資料が掲載されている」と説明があった。書写といえば、鉛筆や筆を握り、心を落ち着けて日本の文字を書くといったイメージが強く、海外の文字文化について学ぶという視点は新鮮。具体的にどのような例が示されているのか教えてほしい。

・高尾校長

まずは、教出の第5学年。巻末をご覧頂きたい。「世界のこんにちは」として、中国語や韓国・朝鮮語といった比較的私たちになじみがある文字はもちろん、アラビア語やロシア語の文字も紹介されている。続いて、東書の第5学年、38ページをご覧頂きたい。「世界の文字いろいろ」として、見開きで大きく示してある。ここでは、各国の文字はもちろん、その言語についての簡単な説明もあり、児童は海外の文字文化について興味をもちやすいと考える。

◎ 社会の説明

後東校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 社会についての質疑・応答・意見交流

・平岡校長

先程の説明の中で、広島県を題材とした内容の記載があることは、児童の興味・関心を高める上で大切だとあった。その通りだと思う。ところで、呉市を取り扱っているものはあるのか。

・後東校長

東書第6学年の歴史編「日本の歴史」において、教科書33ページに倉橋にある復元された遣唐使船の写真が掲載されている。教出第5学年の「日本の工業生産を振り返ろう」において、教科書256ページに呉市の造船が地図に明記してある。日文第6学年の「空襲を受けたおもな都市とその被害」の資料において、地図に呉市が明記してある。

・安宗校長

観点3の説明で、東書ではマイ・タイムラインの作成が取り上げられているとあった。広島県が作成した「マイ・タイムライン」を配付し、児童に記入させているので、イメージは湧きやすい。教科書では具体的にどのようなことをするのか説明してほしい。

・後東校長

東書第4学年88ページでは、見開き2ページでマイ・タイムラインが大きく取り上げられている。ここでは、いくつかのステップに分けて作り方が紹介されるとともに、「やってみよう」として、児童に自分にとって必要な行動を書き込み、マイ・タイムラインを完成させる内容となっている。「書き込む」という作業的活動を行うことで、より児童の防災意識を高めることにつながると考える。

◎ 地図の説明

後東校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 地図についての質疑・応答・意見交流

・曾根校長

呉市を取り扱っているものはあるのか。

・後東校長

帝国では、「瀬戸内海周辺」の地図において、呉、広、音戸、倉橋、川尻、安浦、蒲刈、下蒲刈、豊浜、豊の地名が明記されている。また、造船、精密機械、筆の表示やみかん、レモン、かきなどの特産物の表示も明記されている。さらに、朝鮮通信使や大和ミュージアムも明記されていることから、呉市の内容を多く取り扱っていると言える。

・清水校長

防災マップ作りの手順が掲載されているとあったが、具体的にどのような特徴があるのか教えてほしい。

・後東校長

手順を5段階に分けて示しており、テーマを決め、町歩きの準備、実際の調査、防災マップにまとめる方法を示し、発表する内容になっている。また、地図マスターへの道で4年の防災と関連していることを示し、なぜ防災マップを作る必要があるかについても丁寧に説明している。

◎ 算数の説明

横山校長が資料「総合所見(案)」に基づき説明を行った。

◎ 算数についての質疑・応答・意見交流

・山田校長

観点②の中で、啓林館は、「児童の思考の流れを考慮した題材が単元の導入で提示されている」とあったが、どのような単元の導入か。

・横山校長

啓林館の第5学年135ページ「面積」の単元を例に説明する。他の5者は、平行四辺形から三角形の面積を求める単元構成になっている。啓林館においては、直角三角形から三角形の面積を求める流れになっている。児童にとって、直角三角形は長方形の半分であることや、形を変えると長方形になることが視覚的に分かりやすいことから、既習の面積の求め方に帰着して面積の求め方を考えたり、公式をつくったりしやすいと考える。

・高尾校長

観点③の中で、啓林館は、「算数や数学が活用されている職業の例が示されている」と説明があったが、具体的にどのような例か。

・横山校長

啓林館の第6学年230ページ、「未来へのとびら お仕事インタビュー」を例に説明する。どの者も、小学校の学習内容の発展的な学習の事例として、中学校へつながる内容が示されている。さらに、啓林館においては、ミニチュアアーティストやロボットエンジニアなどの職業の例を挙げて、小学校で学んできた算数やこれから中学校で学ぶ数学が、世の中のさまざまな場面で役立っていることを紹介している。児童にとって、算数で学んだ考え方が、自分の生活とどのようにつながっているのかをイメージできるとともに、自分の将来を考える上で算数を学ぶよさを実感できると考える。

◎ 理科の説明

平岡校長が資料「総合所見(案)」に基づき説明を行った。

◎ 理科についての質疑・応答・意見交流

・木村校長

観点2「主体的に学習に取り組む工夫」に関する説明の中で、一部の発行者は、予想される結果について考えさせる工夫が位置付けられているとあった。イメージだが、実験をする前に、先生が「どうなると思う？」と結果を予想させる発問をすることは理科ではそれほど珍しいことではない気もするが、やはり理科では大切なことなのか。

・平岡校長

小学校学習指導要領理科編では、児童が「見通しをもって観察、実験を行うこと」の意義について述べられている。児童は、見出した問題を解決するために、予想や仮説をもったり、それらを基にして観察、実験などの解決の方法を発想したりしながら学習を進めていく。「自分の予想や仮説が正しいなら、この方法で実験を行えば、このような結果になるはずだ」といった見通しをもって取り組むことで、児童は主体的な問題解決を図ることができる。そうした観点からも、教科書に「結果の予想」が位置付けられていれば、児童は見通しをもつことを意識しやすくなり、引いては問題解決の力全体を高めることにつながると考える。

・木村校長

よく分かった。では、そうした「予想される結果について考えさせる工夫」について、教科書ではどのようになっているか具体例を示していただきたい。

・平岡校長

啓林館を例に説明する。啓林館の第5学年、35ページをご覧頂きたい。「種子が発芽する条件」を調べる実験において、表で整理されている。表の下から2段目に「結果の予想」という欄があり、「アの条件なら、『全て発芽する』という結果になるはずだ」と、予想される結果が位置付けられている。さらに、44ページでは、「結果の予想」欄が空欄になっており、児童は自らの予想と実験方法とを関連付けて、問題解決の見通しをもつことができるよう工夫されている。

◎ 生活の説明

清水校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 生活についての質疑・応答・意見交流

・横山校長

観点2「主体的に学習に取り組む工夫」に関する説明の中で、東書のワークシートの例では、アサガオの栽培と比べる記述があるとあった。これは具体的にどのように示されているのか教えてほしい。

・清水校長

東書下巻、13ページをご覧いただきたい。ページの右下に、ワークシートの例が示されている。児童の記述として、「アサガオと同じしちゅうだとミニトマトのはっぱが当たってしまいます。」とあり、ミニトマトを栽培する学習の中で、それ以前に学んだアサガオの栽培の経験を思い出しているようすが書かれている。また、ワークシートではないが、ページを進めていただいて、17ページをご覧いただきたい。ページ中段、「キュウリのせい長ニュース」が示されている。児童の「そだててみて思ったこと」の中に、「アサガオのときよりもせわがたいへんでした。」とある。こうした記述例を見て、児童は、以前に体験したり学んだりしたことを使って考えることの有用性を感じることができると思う。

◎ 休憩をとる。（15分間）

◎ 音楽の説明

曾根校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 音楽についての質疑・応答・意見交流

・平岡校長

観点1「基礎・基本の定着」に関する説明の中で、教芸は発声の扱いについて、段階を追って、分かりやすく掲載されている」とあったが、具体的な内容はどのようなものか。

・曾根校長

教芸では各学年の歌声ルームに発声について扱いが示されており、第1学年「うえのおくのはと、したのおくのはをすこしはなして、あかるいかおでうたいましょう。」のように低学年は口の開け方や、姿勢など、第3学年「声をおでこのあたりにひびかせて、息を遠くのほうへとどかせるようにしましょう。」のように中学年では体や息の使い方、第5学年「正しい音の高さで歌うことに加えて、他のパートとの音量のバランスに気を付けながら、音色をとけ合わせるように声を重ねて歌うと、ゆたかな合唱のひびきになります。」のように高学年では斉唱や合唱、変声期の歌い方の工夫など、曲想にふさわしい声を出すにはどうしたらよいか、体や息の使い方などを掲載されている。

・安宗校長

観点2「主体的に学習に取り組む工夫」に関する説明の中で、「主体的な活動を促すような工夫がある」とあった。具体的にどういったものか。

・曾根校長

教芸第1学年の「はくにつれてリズムをうとう」では、「おなじことばをくりかえしたり

ちがうことばをくみあわせたりしてできるリズムのおもしろさをたしかめしょう。」「どのことばでつくるとおもしろいかんじのリズムになるかかんがえてつくりましょう。」といった内容が示されている。「おなじことばのくりかえし」や「ちがうことばのくみあわせ」等の視点で、児童が段階を踏みながら音楽づくりに取り組むことができると考える。

◎ 図画工作の説明

大窪校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 図画工作についての質疑・応答・意見交流

・清水校長

観点2「主体的に学習に取り組む工夫」について、先ほどの説明で開隆堂は、全ての題材において、タブレット端末等で導入動画を視聴できるように二次元コードが示されているとあるが、導入動画とはどのような動画なのか。児童の興味・関心を高めることができるような内容となっているのか。

・大窪校長

導入動画を視聴することで、学習の見通しをもたせることができたり、活動に支援が必要な児童への活動のヒントにしたりすることもでき、実態に合わせて活用することで児童の興味・関心を高めるだけでなく、主体的な学習につながると考える。実際に、二次元コードを読み込んで導入動画を御覧いただきたい。

・横山校長

観点2「主体的に学習に取り組む工夫」について、開隆堂にも日文にも特設ページが設定されているが、特に開隆堂の特設ページでは、比較させたり、ちがいに着目させたりする工夫があるとのことだった。こうした工夫は、具体的には教科書でどのように示されているものなのか教えていただきたい。

・大窪校長

それでは、開隆堂の特徴を教科書を見ながら説明させていただく。第3・第4学年上の26、27ページを御覧いただきたい。ただ作品を掲載するだけでなく、見方や考え方を広げる工夫がされている。ひまわりの表し方の違いに注目して、いろいろな表し方のよさを知り、それぞれの表現のおもしろさについて考えられるよう設定されている。また、第5・第6学年下の30、31ページを御覧いただきたい。人物を描いた二つの作品を比べ、姿や色の描き方に注目しながら、似ているところを探すなどの活動をとおして、自分の表現に取り入れることについて考えられるよう設定されている。このように、見方や考え方を広げることをねらい、特設ページが設定されている。

◎ 家庭の説明

木村校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 家庭についての質疑・応答・意見交流

・山田校長

観点2「主体的に学習に取り組む工夫」に関して、「生活の営みに係る見方・考え方」の4つの視点を意識した実践例があるとのことだが、例えばどのような例が示されているのか教えてほしい。

・木村校長

例えば、開隆堂の87ページ、「生活時間をマネジメント」を御覧いただきたい。生活時間を見直す4つの視点とその例として、「協力」では、家庭の仕事を家族といっしょに行う。「健康・快適・安全」では、ごみすてを分担する。「生活文化」では、季節の行事を家族と共にできる時間を作る。「持続可能な社会」では、おふろがわいたら続けて順番に入るようにする。このように子どもにとってイメージしやすい具体的な例が記載され、「生活の営みに係る見方・考え方」を意識させるための工夫がされている。

◎ 保健の説明

税所校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 保健についての質疑・応答・意見交流

・清水校長

観点1「基礎・基本の定着」について、けがの手当てに関する事例として、東書、大修館、光文は手当ての方法の順序が番号で示され分かりやすいと説明があったが、もう少し具体的に教えていただきたい。

・税所校長

東書と大修館を例に説明する。東書の第5, 6学年, 41ページと、大修館の第5, 6学年, 39ページをご覧いただきたい。けがの種類ごとの手当ての方法が表にまとめられており、手当ての手順に番号を付け、短い言葉で示されている。番号を付けることによって、一つ一つの手順を確認しながら実習を進めることができ、大切なポイントを落とすことなく、手当ての方法についての理解を深めることができるようになっている。

・木村校長

観点2「主体的に学習に取り組む工夫」として、東書、大日本、光文は、まとめや振り返りの工夫について、学習したことが確認しやすいよう工夫されていると説明があった。総合所見を見ると、東書のみ、二次元コードによるワークシートが導入されていると記載があるが、二次元コードによるワークシートとはどのようなもので、また、どのような効果が考えられるのか教えていただきたい。

・税所校長

東書の第3, 4学年, 25ページをお開きいただきたい。右下に二次元コードが示されているが、この二次元コードを読み取ると、前に示されているような画面が表示される。ここにあるワークシート5をタップすると、単元を振り返るためのワークシートが表示される。効果としては、児童はタブレット上でワークシートに直接記入することができる。このようにタブレット上でワークシートを使えば、記入したワークシートを提出する時間を短縮したり、互いの考えを画面上で共有したりすることができ、学習内容への理解を広げたり深めたりするなど、学習の幅が広がることが考えられる。

◎ 英語の説明

森田校長が資料「総合所見(案)」に基づき説明を行った。

◎ 英語についての質疑・応答・意見交流

・安宗校長

観点2「主体的に学習に取り組む工夫」に関する説明の中で、二次元コードを活用するとあったが、小学校における英語の学習において、児童の主体的な学びを実現するためには、教科書の紙面だけでなく、二次元コードを活用し、より多くの種類の教材に触れさせることが有効だと思うが、他にどのようなものがあるのか。

・森田校長

どの教科書の紙面にも、二次元コードが掲載されており、歌やチャンツなど、音声に慣れ親しむものや、アニメーションを視聴する活動、会話の続け方の資料や文字に慣れ親しむ活動等多様な活動が収録されている。例えば、東書の学校生活が取り上げられた単元では、先程説明した単元終末の言語活動のモデル動画の他、アニメーションや音声を視聴して場面の順序を考える等の活動、自己紹介動画を視聴して質問に答える活動、単語辞典、歌、チャンツ等が収録されている。二次元コードを活用することで、授業で児童一人一人の実態に合わせて学習を進めることができ、家庭学習にもつなげることができると思う。

・木村校長

観点4「内容の表現・表記」に関する説明の中で、単語を調べたり、書いたりする活動で単語辞典を効果的に活用することができるがあったが、具体的にどのような場面で活用するのか。

・森田校長

例えば、中学校生活への期待等が取り上げられた単元において、中学校で入りたい部活動や、将来就きたい職業等を児童同士で伝え合う際に、単語辞典で調べて自分が伝えたい表現にしたり、会話をしたことをカードに書くという活動を行う際、どのように書くのか

スペルを調べたりすることができる。新出単語を調べるだけでなく、単語辞典から、既習表現を繰り返し使うことで、表現が定着することも期待できる。

◎ 道徳の説明

山田校長が資料「総合所見（案）」に基づき説明を行った。

◎ 道徳についての質疑・応答・意見交流

・高尾校長

観点1「基礎・基本の定着」に関する説明の中で、一部の発行者は、発問の示し方について、発問が精選されており、多様な学習展開を仕組むことができるとあった。道徳科における発問について、具体的な説明をお願いしたい。

・山田校長

小学校学習指導要領解説では、「発問の工夫」について示されている。教師による発問は、児童が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める上で重要であるとされている。教科書を見ながら説明させていただく。まず、東書の第5学年、124ページをご覧頂きたい。「ブランコ乗りとピエロ」の教材において、「ねらい」に深く関わる中心的な発問として二重丸で「ピエロの心からサムをにくむ気持ちが消えたのはどうしてでしょう。」と設定されている。さらに、「相手の意見が自分とちがったとき、あなたはどうしますか。」と「自己を見つめる発問」が示されている。また、学研の第6学年、123ページをご覧頂きたい。同じ「ブランコ乗りとピエロ」の教材において、2つの発問が設定されている。このように発問を精選することで、指導者が本時のねらいや児童の実態に即した多様な学習展開を仕組むことができ、児童一人一人の道徳的価値の理解が深まったり、広がったりして、ねらいに迫ることができると思う。

◎ 全体を通して

・吉長教授

調査・研究委員の方々の調査・研究をもとに選定委員の先生方がまとめた総合所見について報告を聞くことができた。専門的な知見で非常に客観的にまとめており、本当に感謝する。普段の忙しい業務に加えての丁寧な仕事に大変嬉しく思う。

今日の選定委員の説明の中で、特徴があらわれている観点を取り上げて説明してもらったが、特に観点2、主体的に学習に取り組む工夫のところが多く説明されており、印象に残った。

県が示したどの観点も大切だが、特に「主体的に学習に取り組む工夫」に特徴が表れているし、これからの若い世代にとって、主体性というのは非常に必要なことだと感じた。

・藤脇保護者代表

たくさんの教材の中から一つ一つ確認して、各教材の良いところをピックアップしてわかりやすくまとめて書いてあって大変だったのではないかと思います。子どもが学校を休んでも、家で動画を見て振り返ることができる二次元コードはとても大事だと感じた。

・脇原保護者代表

とてもわかりやすい内容がまとめられて比べやすかった。二次元コードに対応するなど、どの教科書も変わっているというのを実感した。大変な作業であったと思う。感謝する。

◎ 総合所見の案を基に、教育長に報告することについて承認を得る。

◎ 閉会

細川主任指導主事が会を終了した。